

妙法寺だより

今を生きる智恵と勇気ともに学び歩むお寺

VOL.265

秋彼岸号

9

2026 AUTUMN
季刊誌2026年9月発行



- ・ 秋季彼岸会法要
- ・ 宗祖御入滅報恩会式
- ・ 住職のCoffeeTime 「心を守り行いを整える持戒の教え」
- ・ 10月浄心道場のご案内

秋季彼岸会法要

9月23日 (秋分の日) 午後2時より



～お彼岸のお参りのご案内～



9月20日～9月26日のお彼岸期間中は、ご自由に本堂へご参拝いただき、卒塔婆をお受け取りいただけます。

～お彼岸の始まりまでに卒塔婆供養をいたします～



卒塔婆のお申込は別紙にて**9月17日必着**でお願いいたします。



お彼岸期間中は、お線香と生花の販売を行っております。お線香1束：100円 生花1対：1500円・2500円の2種類



お彼岸期間中は墓地裏口を臨時駐車場として開放しております。小学校前は朝7：00～8：30まで通行禁止となっておりますので、ご注意ください。

お彼岸は

「心と生き方の定期検診」

お彼岸は、ご先祖さまに感謝を捧げる大切な供養の時であると同時に、私たち自身の心と行いを省みる仏道週間でもあります。仏教では「六波羅蜜（ろくはらみつ）」と呼ばれる六つの修行を行うことで、迷いや煩惱にとらわれた此岸（しがん）から、悟りの彼岸（ひがん）へと心を運んでいけると説かれています。いわば「心と生き方の定期検診」ともいえる仏道週間であります。

その六つとは――

- 一、布施（ふせ） 足るを知り、他人に惜しみなく善行を施す心
- 二、持戒（じかい） 規則や規律、自身で決めた約束を守る心
- 三、忍辱（にんにく） 思い通りにならないことを受け入れる心
- 四、精進（しょうじん） 自分の役割を見つめ、励み努力する心
- 五、禅定（ぜんじょう） 心の声に耳を傾け、静かで穏やかな心
- 六、智慧（ちえ） 仏様の教えを学び、物事を正しく見つめる心

今号5～6のページの「住職のCOFFEE TIME」では、「持戒」にスポットを当て、詳しく解説しております。ぜひ、「」覧ください。



領 収 証	
令和8年8月24日	
妙法寺 檀信徒有志会 同様	
金	73,306 円
但し 令和8年 熊本地震 義援金 として	
上記正に領収いたしました	
熊本県熊本市西区花園4-13-1 日蓮宗熊本県宗務所 Tel 096-319-7288 Fax 096-319-7289	

熊本地震義援金のご報告

8月16日の盂蘭盆法要に際し、7月28日に発生した熊本県の地震で被災された方々への義援金を募らせていただきました。

皆さまからお寄せいただいた73,306円は、日蓮宗熊本県宗務所へお送りし、このたび領収証が届きましたのでご報告いたします。

皆さまの温かいお気持ちとご協力に、心より御礼申し上げます。

被災された皆さまが一日も早く穏やかな日常を取り戻されますよう、妙法寺でも引き続き祈りを捧げてまいります。

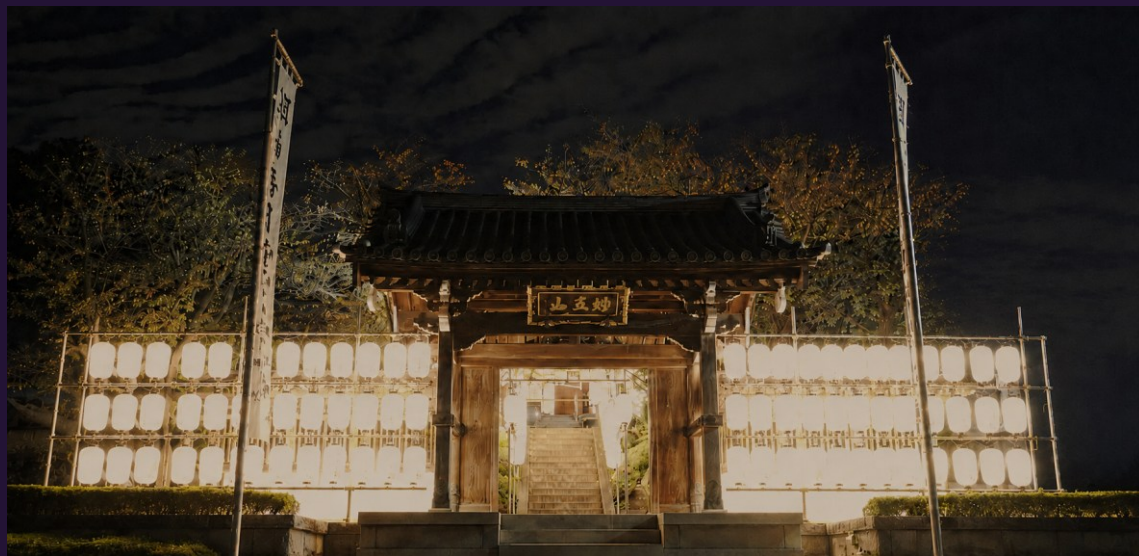
南無妙法蓮華經の声、秋の夜に響く

しゅう そ ご にゅう めつ ほう おん え し き

宗祖御入滅報恩会式

宗祖日蓮聖人御入滅 第745遠忌

開山日昭聖人御入滅 第704遠忌



11/1 ① 午後6時～



妙法寺の御会式唱題行

おえしきしようだいぎよう

日蓮聖人は、南無妙法蓮華經のお題目こそが成仏への大道であると、そのお題目の布教に一命をかけられました。そのご報恩の思いを込め、当山では「御会式唱題行」と題して、参列の皆さまと共に太鼓を打ち鳴らし、一心に南無妙法蓮華經のお題目をお唱えいたします。お堂を暗くしての唱題は、視界が閉ざされることで自然と音に心を澄まし、声の響きに身をゆだね、より一途にお題目に集中できるひとときとなります。まるで闇を抜けて光を見出すように、唱題の声が心を照らし出します。

どなたでもご参加いただけます、皆様のご参加をお待ちしております。

お経本や太鼓は、妙法寺から貸し出しいたします。

御会式法要の起源

宗祖御入滅報恩会式は、通称「お会式」と呼ばれ、弘安五年十月十三日に御入滅された宗祖日蓮聖人、そして元享三年三月二十六日に御入滅された妙法寺を開山された日昭聖人の遺徳を讃える法会であります。

左の浮世絵は、元治元年（一八六四）に刊行された『江戸自慢三十六興』の一枚「池上本門寺会式」です。人物を三代歌川豊国、背景を二代歌川広重が描いた作品で、池上本門寺のお会式へ向かう人々の姿が描かれています。当時から御会式が多くの人々に親しまれた行事であったことがうかがえます。



住職の活動報告

臨済宗大本山 円覚寺様での講義



7月3日、鎌倉にあります臨済宗大本山 円覚寺様にお招きいただき、修行僧「雲水」の皆さまに、地獄VRの体験と妙法寺の取り組みについてお話しする機会をいただきました。お招きくださったのは、私も尊敬する円覚寺のご住職、横田南嶺 老師。日蓮宗の僧侶が雲水さんにお話しするのは初めてとのことで、なんとも光栄なご縁です。厳しい修行の日々も少し拝見し、貴重な体験をさせていただきました。

身延山 信行道場での講義



8月25日、身延山の信行道場に外来講師としてお招きいただきました。信行道場は、日蓮宗僧侶となるための35日間の修行の場。今回は「時代に合わせ、時代に流されない僧侶へ」と題してお話ししました。少し難しい話もあったかもしれませんが、それでも僧侶として人と向き合い、悩みながら歩む中で、いつか「あの時の話は、こういうことだったのか」と思い出してもらえたら嬉しく思います。写真は、主任の濱田先生【右】、副主任の吉田先生【左】です。

心を守り行いを整える

“持戒”の教え



「心と生き方の定期検診」 六波羅蜜

お彼岸のページでご案内の通り、春と秋のお彼岸は、ご先祖さまへの感謝を捧げると同時に、私たち自身の心と行いを見つめ直す「仏道週間」でもあります。その心と行いを点検する物差しとして、仏教では「六波羅蜜（ろくはらみつ）」という六つの修行を教えています。昨秋は、その第一の修行である「布施」についてお話しさせていただきました。今秋は、二つ目の修行として説かれる「持戒（じかい）」についてお話しいたします。「持戒」とは、「戒律を守り、それを保ち続ける」という意味です。今回は、この「持戒」について、できるだけわかりやすくお話しします。

「縛られる」から「守られる」へ

「戒律」と聞くと、皆さんはどんなイメージを持たれますか？おそらく「あれをしてはいけない」「これをしてはいけない」という、窮屈な禁止事項を想像されるのではないでしょうか。実は、若かりし頃の私もそうでした。僧侶の世界のしきたりや、数々のルールに「なぜこんなに縛られなければならないのか」と反発を感じたこともあります。しかし、人生を重ねていく中で、その捉え方は大きく変わりました。戒律とは、私たちを縛る「鎖」ではなく、人生という道を安全に走るための「ガードレール」や「標識」のようなものであると言えます。

「戒」と「律」の違い

ここで少し、言葉を紐解いてみましょう。「戒律」は、「戒」と「律」という二つの言葉からできています。「律」は、社会や集団が乱れずに暮らすための、「規則・ルール」であり、罰則も伴います。一方、「戒」は、自分との約束であり、「誓い」です。誰に言われるでもなく、「私はこうありたい」と自ら決める内面的な指針です。例えば、「私は、どんな時でも優しい人であろう」、これだけで立派な「戒」になります。社会的な規則の「律」と、自分で決めた「戒」を守ろうとすることが、結果として私たちの心と生活を整え、穏やかな日々を護ってくれるのです。例えば、交通ルールを守るという「律」を行いながら、合流しようとしている車には、

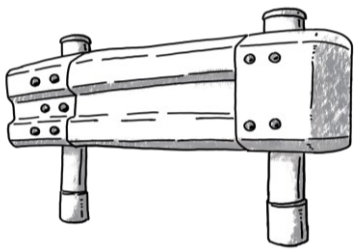
道を譲ってあげるといふ「戒」を行う。この二つを併せ持つ「持戒」が自分自身の「在り方」を確立することなのです。

なぜ「ルール」があると自由になれるのか

例えば、全く交通ルールのない道路を想像してみてください。信号もなく、誰もが好きなスピードで走る世界。そこでは一瞬も安心できず、本当の意味での「自由な運転」など不可能です。「赤信号で止まる」というルールがあるからこそ、私たちは安心して目的地へ向かうことができます。私たちの心も同じです。「怒りに任せて言葉を発しない」「暴飲暴食はせずに、健康に気配りをする」。こうした自分なりの「心や生活のガードレール」を一本持つておくだけで、人生における余計な衝突や事故、後悔を減らすことができます。人は忙しさに追われ、心が疲弊すると、どうしても言動が雑になります。大切な人を傷つけ、自分自身を嫌いになってしまう……。そんな時こそ、持戒という「ガードレール」が私たちを支えてくれます。このように持戒とは、「我慢大会」ではなく「心と生き方を整える修行」であると言えます。

住職の「戒」

私自身も、先代住職から引き継いだ「毎朝の読経を欠かさない」という修行を、僧侶としての「戒」として大切にしています。しかし、お恥ずかしながらたまに寝坊をしてしまうこともあります。そんな日は、ご本尊様に対して「申し訳ない」という、どこか落ち着かない、どんよりとした心で一日を



緊張感が伝わってくる
円覚寺 修行道場の入口

過ごすことになります。この「どんよりした気持ち」も戒を大切にしているからこそ生まれてくるものなのでしょう。戒という約束があるからこそ、自分の心の乱れに気づくことができる。戒律とは、単なる義務ではなく、今の自分の立ち位置を教えてくれる「心の羅針盤」なのだ、そんな時に改めて痛感いたします。

ほんの少し背筋が伸びる 「私の戒」

このように、戒は私たちの心や暮らしを整え、時には自分自身を守ってくれるものでもあります。しかし、戒はただ自分を守るためだけのものではありません。「怒りに任せて人を傷つけない」「毎朝、仏壇に手を合わせる」など、今の自分よりほんの少し善い方向へ進むための約束を自ら定め、それを守り続けようと努めることが「持戒」という修行です。もちろん、時には守れないこともあります。大切なのは、「まあ、いいか」で終わらせるのではなく、なぜ守れなかったのかを振り返り、また戒に立ち返ること。守れなかった自分に気づき、それでももう一度、守ろうとする。その繰り返しの中で、少しずつ自分の心と行いが整えられていくのだと思います。

この秋、皆様も一つ、「私の戒」を考えてみてはいかがでしょうか。ほんの少し背筋を伸ばさなければ守れないくらいの、小さな約束で構いません。布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧——六波羅蜜とは、こうした日々の小さな実践を積み重ねながら、自分自身を見つめ、より善く生きる自分を育てていく仏道修行なのです。

浄心道場



「お寺の掲示板」に見る仏教の教え

お寺の掲示板のユニークな言葉を通して、
仏教の智慧や生きるヒントに触れてみませんか。



浄土真宗本願寺派僧侶・
元仏教伝道協会職員

江田 智昭 先生

講 題 「お寺の掲示板」に見る仏教の教え

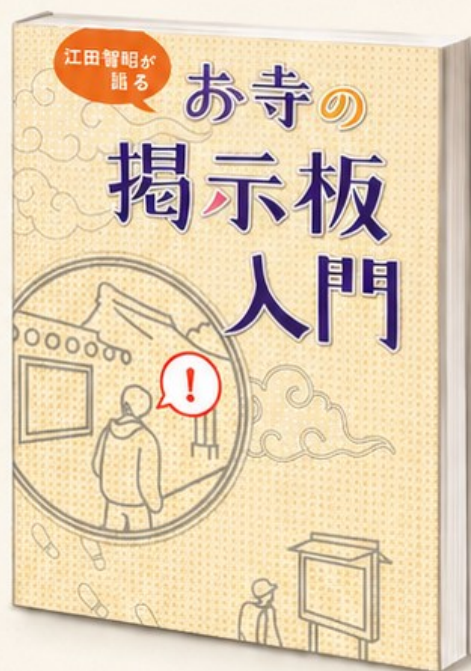
講題コメント

「お寺の掲示板」のことばが現在メディアなどで
注目を集めています。

日本全国のお寺の門前にある掲示板に掲示された
ユニークな言葉をスライドで紹介しながら、その
言葉の意味やそこに含まれる仏教の教えに触れて
いきます。

講師紹介

江田智昭さんは、NHKや朝日新聞、テレビ朝日
の「タモリ倶楽部」など多くのメディアで特集され、
話題となった「お寺の掲示板」の著者です。
本書では、お寺の掲示板の短い言葉に込められた
仏教の智慧や生きるヒントを紹介しており、
SNSでも大変話題となりました。是非ご参加ください。



著書「お寺の掲示板入門」

開催日時・プログラム

日時：令和 8 年 10 月 4 日 (日)

1部 供養会：午後 2 時～

2部 法話会：午後 3 時～

※各部のみのご参加も可能です。

皆さまの
ご参加を
お待ちしております

